

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:いすみ市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道(株) いすみ循環-1	市役所大原庁舎～長者町駅～いすみ医療センター～市役所大原庁舎	前回の評価、平成29年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員の助言として、利用者や目標達成だけでなく、地域にとって何がプラスになるのか、より踏み込んだ調査検証・分析が重要であるとされているように、市内交通バスおよびデマンド交通について利用者アンケートを実施し市民ニーズを調査及び検討する。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	補助対象期間(平成29年10月から平成30年9月)の利用目標20,000人のところ、実績は20,487人(うち75歳以上無料パスポート使用者が6,975人)という結果となった。効果達成状況としては、今まで市内バスを利用していなかった高齢者層が利用するようになったことで公共施設への利用促進となっている。また高齢者の移動手段確保への整備ができたと考える。
小湊鉄道(株) いすみ循環-2	市役所大原庁舎～長者町駅～房信夷隅町支店前		A	計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	
小湊鉄道(株) いすみ循環-3	市役所夷隅庁舎前～下布施～市役所大原庁舎		A	計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	

利用実態を注視し、運行時刻の見直しに配慮しつつ、新たに高校生料金を設定や一部運行時間の見直し検討するなど、今後も利用促進に向けた継続的な啓発として積極的な利便性の向上を図っていきます。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月31日

協議会名:	いすみ地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>バス交通に関しては、交通空白地帯の解消と交通弱者対策に対応するため、JRやいすみ鉄道など民間交通機関との接続への配慮など利便性の向上を図りながら運行を継続してきているところであるが、運行には多額の経費を要しており、路線の維持存続は課題となっている。</p> <p>今後も市民が将来にわたって安心して暮らせる生活環境の確立と、地域経済力の向上に資することを目的に、地域公共交通確保維持改善事業を活用することにより、今後も行政負担を軽減しつつ、継続的なバス運行の維持・確保を図っていく必要がある。</p>